

昭和22(1947)年9月 第3代 島 啓吾 教授 就任



学生講義資料の前で



手術中の島教授



ポリクリの様子



昭和26(1951)年6月10日 久留米大学整形外科同門会発会式

整形外科と災害外科 1(1):1951年12月

島 啓吾:股関節病的脱臼に対する寛骨臼蓋形成術
重松 加久雄:腰筋痛のミアステジンによる治療成績

整形外科と災害外科 1(2):1952年3月

腰痛討論会:座長 天児民和

島 啓吾(農村における腰痛)ほか4名

重松 加久雄:脊椎分離症分離部の動揺について

以下抄録のみ

佐藤 光雄:後部脊椎に転移せる肉腫の1例

田中 清一:肘関節離断性骨軟骨炎の1例について

永田 恒久:第2ケーラー氏病の1例



第3代 島 啓吾 教授 昭和22(1947)年～昭和27(1952)年

生田教授の後任として36歳で九州大学より着任。
昭和27(1952)～46(1971)年 北大整形外科教授。

在職当時の思い出になるような写真を送ってくれとの依頼があった。自分自身はつい先日の様に思っていたのに考えれば久留米を去って既に十年の歳月が流れている。そこで何か適当な写真はないかと思って古い写真を引き出してみたがどの写真も酒を飲んでいるものばかりである。

この頃は太分教室も充実し、いよいよこれからと云う時代であったように記憶している。しかしそれから間もなく久留米を去る運命になったのは皆様ご承知の通りである。